

# 2025年プロセス化学ラウンジ アンケート結果分析レポート

日付：2025年12月17日

作成：プロセス化学ラウンジ将来計画委員会

調査対象	2025年プロセス化学ラウンジ 参加者
調査期間	2025年11月29日 ~ 12月8日
総回答数	36件
会場	東レ総合研修センター

## 主要統計サマリー

**4.8**

平均満足度  
(5点満点)

**66.7%**

初回参加者  
割合

**86.1%**

講演テーマ  
合致率

**94.4%**

新会場  
好評価率

## 1. 参加者プロフィール分析

### 1.1 参加回数の分布

今回のラウンジ参加者のうち、初回参加者が66.7%（24名）と過半数を占めました。これは、本イベントが新規層の開拓に成功していることを示しています。リピート参加者も33.3%（12名）存在し、イベントの継続的な魅力が維持されていることが確認されました。

参加回数	回答数	割合	分布
初めて	24	66.7%	
2回目	8	22.2%	
3回目	2	5.6%	
4回目	2	5.6%	
合計	36	100.0%	

### 1.2 参加動機

「上司に勧められた」(15件) および「先輩・同僚に勧められた」(10件) が圧倒的多数を占め、全体の約7割が職場内の人的ネットワークを通じて参加しています。「過去参加経験があり再度参加したい」という能動的なリピーターも16.7%存在します。

参加動機	回答数	割合	分布
上司に勧められた	15	41.7%	
先輩・同僚に勧められた	10	27.8%	
過去参加経験があり再度参加	6	16.7%	
周囲の勧めはないが興味を持った	3	8.3%	
将来計画委員として参加	2	5.6%	

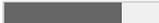
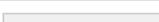
### 1.3 情報源

情報源	回答数	割合	分布
職場・研究室	15	41.7%	
知人・同僚の紹介	9	25.0%	
学会HP	5	13.9%	
過去参加	3	8.3%	
その他（メール案内など）	4	11.1%	

## 2. 満足度・プログラム評価

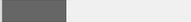
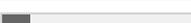
### 2.1 全体満足度

ラウンジ全体の満足度は極めて高く、平均4.8点を記録しました。5点満点の評価が75.0%、4点が25.0%であり、3点以下の評価は皆無でした。参加者全員が「満足」以上の評価を与えており、企画・運営の質が高いことが示されています。

評価（5点満点）	回答数	割合	分布
5点（非常に満足）	27	75.0%	
4点（満足）	9	25.0%	
3点（普通）以下	0	0.0%	

### 2.2 講演テーマの適合性

講演テーマが現場の課題に合致していたかどうかの問いに対し、「非常に合致していた」「合致していた」の合計が86.1%に達しました。実務に直結するテーマ設定が参加者のニーズを的確に捉えています。

評価	回答数	割合	分布
非常に合致していた	12	33.3%	
合致していた	19	52.8%	
どちらとも言えない	5	13.9%	
合致していなかった	0	0.0%	

### 2.3 DX・自動化・持続可能性への寄与

現代のプロセス化学において重要な「DX・自動化・持続可能性」への理解度については、94.4%の参加者が「寄与した」と回答しました。特に「大いに寄与した」との回答が13件あり、先進的なトピックに対する学習機会として機能しています。

評価	回答数	割合	分布
大いに寄与した	13	36.1%	
寄与した	21	58.3%	
どちらとも言えない	2	5.6%	

### 3. 会場・運営環境の評価

#### 3.1 新会場（東レ総合研修センター）の評価

新会場「東レ総合研修センター」については、94.4%が好意的な評価を下しました。アクセスの良さ、施設の清潔さ、設備の充実が評価されています。

評価	回答数	割合	分布
非常に良かった	23	63.9%	
良かった	11	30.6%	
普通・その他	2	5.6%	

#### 3.2 宿泊形式の希望

次回の宿泊形式については、「多少値段が上がっても個室が良い」という回答が圧倒的多数（88.9%）を占めました。プライベートな休息空間の確保を強く求めていることが明確です。

希望	回答数	割合	分布
個室が良い（多少値段が上がっても）	32	88.9%	
どちらでも良い・相部屋可	3	8.3%	
その他（不参加等）	1	2.8%	

### 4. 今後の改善に向けた提案

アンケートの自由記述から抽出された主な要望と改善提案を、カテゴリ別に整理しました。各提案には対応優先度を付与し、今後の運営計画の参考とします。

#### 4.1 対応優先度の判断基準

優先度	判断基準
高	満足度に直結する要素、複数の参加者から要望があった事項、次回開催の成否に関わる重要事項
中	参加者の利便性向上に寄与する事項、一部の参加者から要望があった事項、実現可能性が高い改善事項
低	個別の要望、長期的な検討が必要な事項、現状でも大きな支障がない事項

## 4.2 カテゴリ別改善提案

カテゴリ	提案内容と背景	期待される効果	優先度
講演内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業講演の増加：企業からの実務事例共有の要望が複数あり。現場の課題解決に直結する具体的なプロセス開発事例、失敗事例の共有を求める声が多い</li> <li>■ 専門テーマの深掘り：ICH M7関連（不純物管理）、スケールアップ検討、精製技術、触媒反応、酵素反応など、特定分野のエキスパート講演の要望</li> <li>■ 医薬以外の分野：農業、香料など医薬以外のプロセス化学への関心も一定数存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現場課題への合致度向上</li> <li>■ 参加者の専門性に応じた学習機会の提供</li> <li>■ 満足度のさらなる向上</li> </ul>	高
運営・進行の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資料の事前・当日配布：講演要旨を印刷物として当日配布することで、メモが取りやすくなる。QRコードも併記することでアンケート回答率向上も期待</li> <li>■ 情報公開の早期化：演題、講演者、タイムテーブルを早期に公開することで、参加検討や社内申請がスムーズになる</li> <li>■ 支払い手続きの明確化：参加登録後、支払い方法の連絡までのラグに不安を感じた参加者がいた。確認メールの送付で解消可能</li> <li>■ 経費精算対応：「懇親会」を「情報交流会」と統一表記することで、企業の経費精算がスムーズになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の利便性向上</li> <li>■ 事務手続きの円滑化</li> <li>■ 参加率・アンケート回答率の向上</li> </ul>	中
会場設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スクリーンサイズ：細かい文字が確認しづらいとの指摘あり。可能であればメインスクリーンのサイズ拡大が望ましい</li> <li>■ 電源設備：PCやタブレットでメモを取る参加者のために、電源（コンセント）の確保を希望</li> <li>■ 音響設備：マイクのハウリングが発生したため、マイクの組み合わせや設定の事前確認が必要</li> <li>■ 照明・ブラインド：西日の眩しさや、照明・ブラインドの操作方法の事前把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 講演の視認性・聴取性の向上</li> <li>■ 参加者の快適性向上</li> </ul>	中
宿泊・会場環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個室宿泊の維持：88.9%が個室を希望しており、多少のコスト増加を許容する意見が大多数。プライベート空間の確保は満足度に直結</li> <li>■ 新幹線駅アクセス：スーツケース移動の負担軽減のため、新幹線駅からのアクセスの良さを重視。東レ総合研修センターの継続利用を強く希望</li> <li>■ 館内施設の案内：自動販売機の場所、大浴場の利用時間など、館内施設の案内を充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者満足度の維持・向上</li> <li>■ 移動負担の軽減</li> <li>■ リピート参加の促進</li> </ul>	高
交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 初回参加者への配慮：初参加者が66.7%を占めるため、情報交流会の冒頭でグループ分けや自己紹介タイムを設けることで、交流のハードルを下げる</li> <li>■ アカデミア参加者の増加：産学連携の観点から、アカデミアからの参加者を増やす施策（学生枠の検討など）</li> <li>■ 懇親会時間の調整：大浴場利用者が少なかったため、情報交流会の開始時間を調整する余地がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者間の交流促進</li> <li>■ ネットワーク構築の支援</li> <li>■ 参加者層の多様化</li> </ul>	低
開催時期・地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ウインターシンポとの連携：ウインターシンポジウムの前に同地域でラウンジを開催することで、参加者の移動負担を軽減</li> <li>■ 開催地の検討：関東・関西の中間地点としての静岡開催を継続するか、ウインターシンポとの連携を優先するか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加者の利便性向上</li> <li>■ 両イベント参加の促進</li> </ul>	低

## 4.3 次回開催に向けた具体的なアクションプラン

### 優先度「高」の項目（必須対応）：

- 東レ総合研修センターでの個室宿泊を確保する（予算措置を含む）
- 企業講演者の確保と、実務事例・失敗事例を含むプログラム構成

- 新幹線駅からのアクセスが良好な会場を優先的に検討

**優先度「中」の項目（可能な範囲で対応）：**

- 講演要旨の印刷配布とQRコード併記
- 演題・スケジュールの早期公開（エントリー開始前後）
- 会場設備（スクリーン、電源、音響）の事前確認と改善
- 参加登録後の確認メール自動送信

**優先度「低」の項目（長期的な検討課題）：**

- 情報交換会でのアイスブレイク企画
- アカデミア・学生参加者の増加施策
- ウインターシンポジウムとの開催地連携

## 5. 総合評価と提言

---

2025年のプロセス化学ラウンジは、参加者の満足度が極めて高く、大成功を収めたと言えます。特に「現場課題への直結性」と「新会場の利便性・快適性」が評価の柱となっています。

### 今後の提言：

第一に、会場については東レ総合研修センターの継続利用が強く推奨されます。特に「個室宿泊」は参加者の強い要望であり、コスト増となっても維持すべき要素です。

第二に、コンテンツ面では、好評なDX・自動化テーマに加え、より具体的な「企業での開発事例」や「失敗・苦労話」など、現場の実務担当者に寄り添った深掘りした内容へのニーズが高まっています。

第三に、参加者の多くが職場の上司・同僚からの紹介であることから、組織内での口コミを促進するような資料配布や、早期の情報公開が次回の集客において重要となるでしょう。

---